

第2学年 算数科指導案

日時 平成16年10月19日(火) 第3校時

授業者 グリーンコース 多目的教室 都竹美穂

ブルーコース 2- 教室 梶田美幸

山本千晶

オレンジコース 2- 教室 橋本英子

1、単元名 かけ算(1)

2、単元の目標

- (1) 乗法の意味を知り、日常生活において活用しようとする意欲をもつ。
- (2) ある数量の大きさを、基準とする大きさのいくつ分としてとらえることができ、乗法の意味や倍概念を理解する。
- (3) 乗法の式表示や用語について理解する。
- (4) 2の段、5の段、3の段、4の段の乗法九九の構成のしかたや唱え方を知り、乗法九九を用いて問題を解決することができる。

3、新宮小学校 研究主題

基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ態度を育てる授業作り
 ~ 算数科の指導 ~

1) 1学期公開授業からの課題

課題の設定の仕方

コースによる課題の持ち方

課題追究の場面

個人追究での具体物の使用方法

交流での発表の仕方と教師の板書の仕方

課題の確かめ

まとめや練習問題をする時間の不足

自己評価や教師の評価の弱さ

コースによって変えることを原則にする。
 しかし、問題によって同じ場合もある。

コースによる違いをはっきりさせる。
 交流の仕方の工夫・練りあいの時間を確保する。
 話型を示す。前時の学習の足跡を残す。

「力試し」「ふりかえり」の時間を確保する。

2) 研究の具体的方途

基礎基本・指導計画(観点別学習状況評価を基に作る)

関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
・乗法の関心を持ち、ものの個数をとらえるときに進んで乗法を用いようとする。	・乗法の答えを既習の加法を用いて求める。	・乗法の場面を式に表すことができる。 被乗数を乗数の数だけ累加して乗法の答えを求めることができる。 ・2倍や3倍の数量を乗法を用いて表すことができる。	・乗法の式は、同数のものがいくつかあるときに用いることができる。 ・乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求められることができる。 ・2ばいや3ばいの用語の意味が分かる。
・乗法九九を構成したり、乗法九九を活用したりすることに関心を持つ。	・乗法九九の構成の仕方を工夫する。乗法九九を用いて問題を解決する。	・2の段～5の段の九九を構成したり、唱えたりすることができる。 ・2の段～5の段の九九を適用することができる。	・2の段～5の段の九九の構成の仕方や唱え方が分かる。 ・九九やかけられる数、かける数の用語の意味が分かる。 ・乗数が1ふえると、積は被乗数だけ増えることができる。 ・2の段～5の段の九九の適用の仕方が分かる。

指導援助のあり方

(1)個に応じた指導の充実

習熟度別グループの取り組み

習熟度別にする事で、学力において子どもたちの傾向が似たもの同士が固まるため、子どもにあった指導方法を工夫し、よりきめ細かな指導ができる。

2クラスを3つに分けることで、より自分が学びやすいコースを選ぶことができる。

)コースの分け方

- ・ミニテストを行い、自分の解き方を書かせて、実態をつかむ。
- ・コースの説明をし、希望を取る。
- ・学年全体を照らし合わせて人数を調節する。

担任と児童の希望のコースにずれがある場合は、個別に話し合いを持ち、担任が決定した。

単元を通しては固定するが、新しい単元に入る時は、変更希望が無いか確認した。

)コースの内容と子どもの実態

グリーン コース (21人)	・自分の考えをノートに書いたり、みんなの前で説明したりすることができる。 ・これからも前に出てどんどん話し、いろいろな問題に挑戦したい人のためのコース	先生の指示にさっと反応できる。計算など「正しく、速く」できるので、自信を持っている。相手にわかりやすくという点で、伸ばしたい面がある。
ブルー コース (35人)	・考え方はわかるのだが、どう発表したらいいか、どうノートに書いたらいいかわからないときがある。 ・先生に少し手伝ってもらいながら、学習したい人のためのコース	計算などは正しくできる。 見直しや問題を読み間違いするなど、小さなミスが多い。 進んで自分の意見を言うのに、誰かの一押しが必要なきがある。
オレンジ コース (16人)	・先生の話をよく聞き、ブロックを使ったり絵を書いたりしながらゆっくり学習したい人のためのコース	理解力に劣る面がある。クラスや均等割りでは話す機会もあまりなく、話し慣れていない子が多い。

)コース担当

グリーンコース 都竹 美穂

ブルーコース 梶田 美幸 山本 千晶 (TT指導)

オレンジコース 橋本 英子

ブルーコースは人数が多く、低学年支援員の協力が得られるため、TT指導の形をとった。

T1・・・全体を見ながら、机間指導。ヒントコーナーで教える。説明の補足などを行う。

T2・・・板書。ノート指導。考えを書けた子への指導などを行う。

T1・T2の役割分担を明確にする。机間巡視の際には、対角線で動き、全体へ目が行き届くようにする。

(2)授業のねらいの明確化

習熟度で分けたことを前提に、何を通して身につけさせたいかを考える。

指導計画の見直し

- ・習熟度別にコースを作成し、特に個人追究の場でのコースによる違いをはっきりさせる。
- ・ねらいと評価規準を対応させる。
- ・一人ひとりのつまづきをつかみ、それに対する指導援助を考える。